

令和5年度 長野県公衆衛生専門学校運営協議会 議事録

日時 令和5年(2023年)9月26日(火)午後1時30分～3時
場所 公衆衛生専門学校 会議室
出席者 【外部委員】 菅沼 香 (一般社団法人上伊那歯科医師会常務理事)
赤羽 恵子 (長野県歯科衛生士会上伊那支部会員)
下平 陽子 (長野県公衆衛生専門学校後援会会長)
宮澤 みやび (長野県公衆衛生専門学校同窓会会長)
【学校職員】 小野 豊朗校長 以下2名
※外部委員1名欠席

会 議

1 挨拶 (小野校長)

一昨年度、県の歯科口腔保健推進条例が見直され口腔保健がより明確となり、歯科衛生士の役割が重要化してきている。地域のニーズや時代の変化に対応できるよう令和2年度に本会を立ち上げ、地域住民や関係機関と連携し学校運営をしている。運営状況を自己評価したが当校で気づかない点等を学校教育、学習指導の充実のためご意見いただきたい。また自己評価の項目自体も審議いただき今後の学校運営に協力願う。

2 自己紹介

名簿に基づき順番に

3 議長選任

協議会設置要綱第5条の規定により会長を互選
赤羽委員から菅沼委員を推薦、出席委員の賛同により菅沼委員を会長とする。

4 会議事項 (進行：菅沼会長)

(1) 令和4年度の学校運営について

資料に沿って事務局から説明

【質疑応答】

(赤羽委員)

・国家試験不合格者は現在どのような状況か。

(吉田)

・現在は就職内定をいただいていた歯科医院で歯科助手として働きながら臨床の場を学び、国家試験対策講座に参加している。折を見て仕事を一旦休み、国家試験のための勉強に集中する予定。学校としては個別相談に応じたり模試をとおして学力を確認してフォローしていく。

(菅沼会長)

・男性の入学希望者はいるか。

(吉田)

・これまで男性の願書提出はない。

(菅沼会長)

・もし、男性が応募した場合、受け入れられるか。他校でトイレなどの設備面を問題に断ったという事例を聞いている。歯科医師側では男性も歯科衛生士になってくれればと思っている。

(吉田)

・受け入れる。設備面を検討する必要があるが、受験を断ることはない。

(小野校長)

・性別は問わない。3年間修学し国家試験合格を目指す意志があるかの確認は十分行う。

(菅沼)

・教育目標に「人を愛する心を持つ」とあるがどのように教授しているのか。

(吉田)

- ・当校の教育課程は、まず2年次に高齢者施設に体験学習に行き対象者の特性を知る実習を行っている。その後3年時に担当高齢者のアセスメント・分析などを行い、歯科衛生士としてどのように関わっていくのかを広い視野で見れるような実習の組み方をしている。実際の関わり方は現場で活躍している歯科衛生士を見て学んでいる。

(小野校長)

- ・高齢者施設の他にも保育園や乳幼児健診の現場を見て対応法を学んでいるが、臨地臨床実習前の1年次にコミュニケーション論を履修し理論を学ぶ。また2年次にはカウンセリングの授業をとおして相手の訴えを聞き出す手法等を学んでいる。その後に実習に出て力を付けられるように体系立てている。

(2) 令和4年度の学校評価案 について

資料に沿って事務局から説明

【質疑応答】

(宮澤委員)

- ・高齢者施設はコロナウイルスなどの感染症や職員不足から外部からの実習生の受け入れが難しいことがあるが、スムーズに実習生を受け入れてくれているのか。

(吉田)

- ・昨年度は2施設で実施できなかった。施設側の都合と学生側の事情が各1か所あった。コロナ抗原検査で陰性確認が条件となる施設が多い。

(宮澤委員)

- ・学生の態度、学校のバックアップが受け入れ側の安心に繋がっている面もあると感じている。

(小野校長)

- ・コロナウイルスを含め感染症対策は健康管理を日々指導している。施設側の求めに応じ抗原検査を徹底し、できる限り対応し学生が学べる環境を確保している。

(菅沼会長)

- ・それに対して学生のストレス、メンタル不調はないのか。

(吉田)

- ・今の学生は高校時代からコロナ禍のため、健康管理、感染対策が日常になっており指導や必要な対応を素直に受け入れている。

(3) 令和5年度 学校評価案 について

資料に沿って事務局から説明

【質疑応答】

(赤羽会員)

- ・先生方は頑張っているが、社会の動きが変わってきている。常識的に当たり前が当たり前でできていない。ここの学生だけではない。ただ、学生は外に実習に出ていくので、何でそこまでうるさいこと事言うのと思っており、生活指導面が難しくなっている問題である。

(吉田)

- ・歯科衛生士として地域社会に貢献できる人材に育て卒業させたいので生活指導も注力していく。

(菅沼会長)

- ・先生は叱らなければならないが、叱り方、言葉の使い方で相手によっては怒られているととらえメンタル的に参ってしまうこともあり難しい。失敗も糧であるので、止めない、叱らないところで見守っていくが必要だが、それで育てていく事は大変なことである。

(吉田)

- ・どこまで見守り、ストップさせるかの線引きは難しい。すべてを止めては学びに繋がらないこともある。いい体験をさせながら止めた事へのフォローをし、学生自身がなぜ今止められたのか、次はどうしたらいいのか考えられるような指導を心掛けている。

5 その他

(菅沼会長)

- ・今回の学校評価を授業担当の講師へ渡すのか。

(吉田)

- ・ホームページに公開するのでそれを閲覧してもらおう形である。

(菅沼会長)

- ・長野県歯科医師会から 20 名以上講師が派遣され、授業評価もしているが講師の選任も大変である。評価をされる立場でもあるので、運営協議会のメンバーも検討の必要がある。上伊那歯科医師会だけでなく他地区の歯科医師会の先生にも本会に出席してもらってはどうか。また、保護者も 2 名にするなど検討できないか。上伊那歯科医師会としての意見である。

(小野校長)

- ・広く意見をいただくにはより多くの方に委員として意見を聞く手法もあるが、予算的、物理的に課題がある。本会はそれぞれの分野の代表者に委員を担っていただいている。その立場の視点からご意見をいただき運営していくが、多様な意見をお聞きするため検討していく。

(菅沼会長)

- ・上伊那歯科医師会以外の講師派遣をしている郡市歯科医師会の先生方は本会事態を存じていない。全ての会からの参加は難しいだろうが、運営協議会があること、地元である上伊那歯科医師会が代表して出席している事を事前に周知の必要はある。

(小野校長)

- ・貴重な意見として検討していく。

6 閉会 (進行)